地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～ Think Globally, Act from Shobara ～

事業の目標

庄原実業高等学校の進路目標

就農可能率 〔%〕	R1	11.2	⇒	R5	15.0
農業技術大学校への進学者数 〔人〕	R1	5	⇒	R5	7
農業関連学部への進学者数 〔人〕	R1	2	⇒	R5	3

第２期庄原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和3年度～令和7年度（案））

新規就農者【累計】 〔人〕	R1	62	⇒	R6	83以上
認定農相者数【累計】 〔経営体〕	R1	212	⇒	R6	270以上
農業への参入企業数【推計】 〔経営体〕	R1	12	⇒	R6	15

教育課程

企業等産業界との連携（社会実装イノベーション）

	産業実務家教員の活用	先端農家での実習等
３年	産業現場における社会実装の支援	農家等における社会実装
２年	フィールドリーサーチの支援 産業現場実習支援	フィールドリサーチ,デュアル派遣実習
１年	社会人講話 技術指導	先端農家の経営者による講話

探究的な学習活動（産業界等との連携による社会実装プロジェクト）

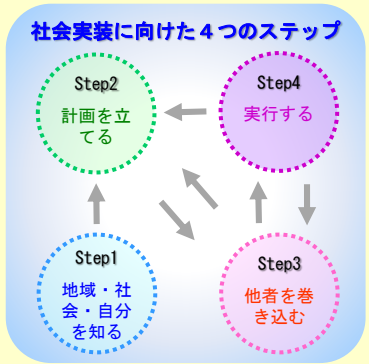
各教科・科目，特別活動

３年「課題研究」
- アグリビジネスコンペティション
- ＳＴＥＡＭ×ＰＢＬ

２年「農業実践研究」
- アグリビジネスアイデアソン
- フィールドリサーチ

１年「農業と環境」
- グローバルデザインthinking
- キックオフミーティング

社会実装に向けた４つのステップ



地域の産業等が抱える課題

大学等との連携（科学技術イノベーション）

	大学との連携	農業技術大学校との連携
３年	共同プロジェクト研究，共同施設利用	共同プロジェクト研究，共同施設利用
２年	フィールドリサーチ，デュアル派遣実習	デュアル派遣実習
１年	教授・学生が取り組む研究内容を知る	農大生のライフプランを知る

個別最適な学び　Google Workspaceの活用，庄実キャリアノートの活用
庄実版デュアル実習の充実

協働的な学び　産学官一体型「学習プログラム」，学科（４学科）間連携
「産学官連携推進ルールブック高校生版（仮）」を活用した共同施設利用

校内体制

学科主任会議，マイスター事業連絡推進会議の開催
- ✓ 校務運営会議やマイスターハイスクールＣＥＯの助言等を踏まえた学科運営等に係る検討
- ✓ 産業実務家教員・外部講師の活用等に係る検討

連絡調整

校務運営会議の開催
- ✓ カリキュラム・マネジメントの視点に立った農業教育全般に係る検討
- ✓ 教育課程の刷新に係る検討

連絡調整

マイスターハイスクールＣＥＯの配置
- ✓ 産業界との連絡調整
- ✓ 教育課程の編成・実施等に係る助言等
- ✓ 「産学官連携推進ルールブック高校生版（仮）」の作成

教育課程の編成・実施等，　校内・外体制の構築

内部統合の視点
- □ 学校・学科等の目標
- □ 生徒の実態
- □ 教師や保護者の願い

学校の教育目標
育成したい生徒像（資質・能力）

外部環境の視点
- □ 社会的な要請
- □ 地域の実情・願い
  マイスター・ハイスクールビジョン
- □ 地域からの期待

外部との連携

マイスターハイスクールCEO選出　　出席　　指導・助言

評価・助言　　報告

マイスター・ハイスクール運営委員会　　**マイスター・ハイスクール事業推進委員会**

「庄原ひとづくりコンソーシアム」

庄原実業高等学校	庄原商工会議所	県立広島大学
広島県	庄原市	農業技術大学校
広島県教育委員会	庄原農業協同組合	庄原中学校

管理機関名（広島県教育委員会／庄原商工会議所／庄原市）、学校名　庄原実業高等学校

令和４年度マイスター・ハイスクール事業

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～　Think　Globally,　Act from Shobara　～

令和４年度の目標 具体的な取組

カリキュラムの刷新	体制づくり	魅力発信
● 産学官一体型学習プログラムの充実 ● 産学官一体型のキャリアモデルに係る検討 ● 「ＳＴＥＡＭ×ＰＢＬ」について協議	● 校内体制の強化による事業推進体制の充実 ● 外部人材活用の適時性に係る検討と教職員の指導力向上に向けた研修の充実 ● 共同研究・共同施設利用に係る協議	● ＩＣＴを活用して学校や事業の魅力を発信する ● 魅力発信ツールの作成を通じて生徒のＩＣＴ活用スキルを高める

カリキュラム刷新の柱となる「未来思考型ＰＢＬ」について

「持続可能な社会・地域のために私たちは庄原にどのように関わるべきか。」という問いに対し，生徒は「10年後の庄原を支えるアグリビジネス」をプロジェクトの統一テーマとして「未来思考型ＰＢＬ」に取り組んでいく。学習プログラムの開発と，地域の多様なリソースを活用することで，時代の変化に対応した資質・能力の育成を図る。

≪時代の変化に対応した資質・能力を育成するための，産学官一体型「学習プログラム」（【未来思考型ＰＢＬ」）≫

※学習プログラムⅠ～Ⅳについては，昨年度同様に第１学年，第２学年で実施
※学習プログラムⅤ，学習プログラムⅥについては，次年度からの実施に向けて検討

学習プログラムⅠ キックオフミーティング

- これから始まるプロジェクトに対する興味・関心を高める。
- 自分達が未来を創る当事者であることの自覚を促す。

学習プログラムⅡ グローバルデザインThinking

- デザイン思考により，自分と地域と世界を創造の世界で繋いで考えることができる。

学習プログラムⅢ フィールドリサーチ

- 地域や社会のリアルな課題を発見することができる。
- リサーチ先・実習先と連携することができる。

学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン

- 地域の課題を解決するために立てた研究仮説の妥当性について，外部講師の指摘を受けて考察することができる。

学習プログラムⅥ アグリビジネスコンペティション

- 他者と協働的に課題解決に取り組み新たな価値を想像しようとしている。
- 自ら社会に参画しようとする意志を持ち，社会を創造する主体としての自覚を高めることができる。

学習プログラムⅤ ＳＴＥＡＭ×ＰＢＬ

- 農業科目や普通科目について体系的・系統的に捉えなおし，専門的な知識や技術とそれらの関係性に気付くことができる。

【学習内容】
生徒が「未来思考型ＰＢＬ」で設定した研究テーマを普通教科の教材として扱い，普通教科の教員が担当教科の見方・考え方をとおして，その学問領域がそれぞれの課題解決においてどのような役割を果たしているか，生徒に気付かせるような授業を展開する。
【教育課程の刷新】
令和４年度入学生から第２学年次，第３学年次に「総合的な探究の時間」（１単位）を設置し，農業科と普通科の学びを往還させる。

【学習内容】
地域の課題解決に向けた生徒のアイデアや取組が，地域の未来社会創造に役立ち，社会実装化に繋がる取組となることを目指し，大学や企業とのマッチングの場としてプロジェクトの発表機会を設ける。
【教育課程の刷新】
生徒のモチベーション向上に繋がる評価基準について検討し，外部審査員によるプロジェクトの実現可能性についてリアルな評価を得る。

管理機関名（広島県教育委員会／庄原商工会議所／庄原市）、学校名　庄原実業高等学校　　令和４年度マイスター・ハイスクール事業

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～　Think　Globally,　Act from Shobara　～

生徒に身に付けさせたい資質・能力

※　★印については，「庄原ひとづくりコンソーシアム」委員の願いと一致する部分

- ★専門的な知識・技術
- ★課題解決能力
- 共創力
- ★提案力
- ★創造力
- 自己管理能力
- 人間関係形成能力

事業評価項目ごとの成果と課題

※　★印については，「庄原ひとづくりコンソーシアム」委員の願いと一致する部分

		項目	目標値	R3 実績値	R4 実績値
アウトカム	定性的評価	①キャリアノートにおける肯定的な変容が見られる生徒の記述内容	80%	—	—
		②「将来，県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある」と回答した生徒の割合（生徒アンケート）	35%	27.6%	35.1%
		③「自分の力で未来を創ることができると思う」と回答した生徒の割合（生徒アンケート）	50%	43.0%	39.4%
	定量的評価	④ＦＦＪ検定上級取得者割合	40%	55.7%	66.5%
		⑤アグリマイスター顕彰プラチナ取得者数	４名以上	２名	０名
アウトプット	定性的評価	⑥産学官連携推進に係る外部との協議	３回以上	５回	３回
		⑦教育課程の刷新に係る外部との協議	３回以上	１回	４回
		⑧マスタールーブリックを意識したシラバスの改訂	３回以上	２回	５回
	定量的評価	⑨外部講師，産業実務家教育の活用時間数	100時間以上	105時間45時間	121時間
		⑩教科等横断的な授業の学習指導案数	５案	11案	９案
		⑪外部機関との共同研究数	各学科１テーマ以上	９件	14件
		⑫推進会議の実施回数	３回	18回	31回
		⑬教職員研修実施回数	３回	—	３回
		⑭講演会実施回数	２回	１回	２回

≪カリキュラムの刷新≫

【成果】
- ◆ 生徒は「未来思考型ＰＢＬ」を通して，県北地域の課題を見つけ，それを解決するためのアイデアを持つことや，10年後の未来を想像することに対して，ポジティブな変容が見られた。
- ◆ 「フィールドリサーチ」や「アグリビジネスアイデアソン」をとおして，外部のメンターを見つけつつ，理想と現実の違いをリアルに受け取める機会が増えた。

【課題】
- ◆ 今後は「地域の課題」に気付かせるだけではなく，「地域の魅力」や「地域の価値」に気付かせるような学習展開が求められる。

≪体制づくり≫

【成果】
- ◆ マイスター・ハイスクールＣＥＯや産業実務家教員の役割が明確になり，学校内における活動も定着してきたことから，目標達成に向けてそれぞれの知見を発揮していただきながら，産学官一体型の魅力ある教育課程を実践することができた。
- ◆ 学習プログラムⅤ「ＳＴＥＡＭ×ＰＢＬ」の検討にあたり，教科・学科を越えて新たに「総合的な探究の時間検討委員会」を設置し，教職間に教科等横断的な視点で協議を行える体制ができた。

【課題】
- ◆ 事業終了後も産学官一体型のカリキュラムが持続的に運用できるようにするためには，成果検証と取組の精選が必要である。
- ◆ 事業終了後の「マイスター・ハイスクールビジョン」及び「庄原ひとづくりコンソーシアム」の在り方を定める必要がある。

マイスター・ハイスクール運営委員の評価

≪目指す生徒の姿の見直しについて≫
- アンケート結果から「未来を想像する」ことはできるようになったが，現実を見る目も養われたため，「自分で未来を創ることができる」と言い切ることが難しくなってきたのではないか。その反応は，ある意味正しい結果だとすれば，目指す生徒の姿に向けて取組は良い方向の進んでいると考えられる。次年度も引き続きこの生徒像で良い。

≪産学官一体型の学習プログラムについて≫
- 学年に対して内容が少し難しいと思われる部分がある。次年度は取組の成果と課題を振り返りながら，内容・系統性・発達段階に応じて何をどのレベルまで求めるのかを見直し，持続可能なプログラムとする。

≪産学官一体型のキャリアモデルについて≫
- 入口の小中学校では系統的な人材育成のイメージが描けているようなので，高校もそこに繋がれる可能性はあるのではないか。大学校や大学の情報収集が必要。引き続き整理を行う必要がある。

≪持続可能な支援体制について≫
- 取組を継続していくための仕組みを構築すること。アイデアを実現しようとする生徒が，庄原後で引き続き探究できるような受け皿について，行政・団体・教育機関に何ができるか，検討していく。
- 「ざっくばらんな会」が重要になる。

管理機関３者と指定校とが日常的な困り事や成果を共有する「ざっくばらんな会」の様子